

# わたしの聖戦 ジ・ハード

◎◎女性が働くことについて◎◎

54

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津江

「コーチ」の変身に戸惑う

日本人のブランド好きについては、改めて取り上げるまでもない。

東京・大阪・名古屋の三大都市はもちろん、日本中がブランドショップで占められ、あつという間にストリート風景の画一化に寄与した。

私が、最初にブランドバッグを購入したのは、アメリカはニューヨーク

でのこと。当時、エイズの取材で結構頻繁にニューヨークを訪問する機会があつた。まだ貿易センタービルがマンハッタンの美しい夜景につつかり刻み込まれていた頃である。

私自身は、ブランド物にあまり関心がなかつた皆と同じものを持つ抵抗

感があつたとともに、正直やはり「高い」イメージが腰を引けさせていたのだ。しかし年齢を重ね仕事で色々な人と交流を持つことも多くなつたため、そろそろひとつくらいい持つてもいいかなと気持しが誘われ、アメリカ在住の日本人にいいブランドのバッグがないか尋ねてみた。

友人いわく、ブランド物はやはりヨーロッパが主流だからねえ、でもせつかくアメリカで買うのなら、地元ブランドがいいんじゃない？ と。そこで、「コーチ」の専門店に連れられてはじめて「ブランドのお店」に足を踏み入れることになつた。かれこれ15年前のこと

とある。

黒と茶がベースの皮製  
品が品良く並ぶその店は、  
私が描く「ブランド物」

ていた。当時コーチはほとんどが正統派革製品を

のオフィス街を闊歩する

初めて  
のショルダーバッグ

生まれて  
黒

ウーマンにとても人気が  
あるブランドだつた。も

あるブランドだつた。もちろん、私は聞いたこともなかつたが、当時はまだ日本にはほとんど知られていなかつたと思う。

そこで、生まれて初めて黒のショルダーバッグを購入した。500ドルくらいだつたろうか。ブ



ランド物としてはそれほど値が張るわけではなくて、當時は円がまだ強かつたため、割安感があつたことを覚えている。二つ。ポケットが付いた黒のショルダーバッグで、おしゃれなのにかつこいいところが気に入った。「マンハッタン」「キャリアウーマン」「日本ではレア物」のキーワードにすっかり魅入られ、買ってみて本当にうれしかった記憶がある。

ランド物としてはそれほど値が張るわけではなく、當時は円がまだ強かつたため、割安感があつたことを覚えている。二つポケットが付いた黒のショルダー・バッグで、おしゃれなのにかつこいいところが気に入った。「マンハッタン」「キャリアアーウィマン」「日本ではレア物」のキーワードにすっかり魅入られ、買ってみて本当にうれしかった記憶がある。

つたのが、コーセーの「C」を模様化した新シリーズを打ち出し、急激に日本に店舗を増やしていくのである。それまでの「重厚」なイメージから「軽い」でも「ファッショナブル」へと瞬く間の変身であつた。

もとは、1941年にマンハッタンのロフトにあつた皮革工房からスタートした「コーセー」であるが、今や世界中にその名が浸透し購買層も一気に拡大した。会社としての思い切った経営戦略としては大成功なのだろう。でも、私はきらびやかな「コーセー」を観ると悲しくなる。会社の成長を第一に考えれば、同じことわりを持ち続けることは難しい。それはわかる。わかつた上で尚、私にとって「不器用だが堂々たるブランド」として格別であつたものが、そうでなくなつたのはひどく理不尽な思いなのである。